

建築人

2024
11

Osaka Association of Architects & Building Engineers
Newsletter "Kenchiku-Jin" No.725





建築人

2024.11 No.725

Osaka Association of Architects & Building Engineers
Newsletter "Kenchiku-Jin"

表紙の建築 「千里グリーンヒルズ竹見台101号棟」2020年

第16回 建築人賞 受賞作品
設計：遠藤剛生建築設計事務所
施工：青木あすなろ建設
撮影：松村芳治

千里ニュータウン内にあるUR千里竹見台団地の「3棟の高層スターハウス」のうち1棟の建替計画である。建替え前の建物の位置・形状を踏襲した置替え設計とすることで、大きく育った緑やオープンスペース、長年ランドマークとして親しまれてきた景観を継承している。

2 大阪浪漫

4 Gallery 建築作品紹介

「茨木市文化・子育て複合施設 おにクル」

設計：伊東豊雄建築設計事務所・竹中工務店共同企業体
施工：竹中工務店

「カネカ事務所棟」

設計：大成建設
施工：大成建設

「なでしこ公園保育園」

設計：石井良平建築研究所+井田英石建築設計室+菅家設計室
施工：林建設

8 動静レポート

9 Topics

10 Information

12 News of Note

14 記憶の建築

「帝国劇場」1966年

端正なたたずまいを湛えて / 松隈 洋

大阪浪漫

(心斎橋エリア)

写真・文 喜多 章

40年程前、心斎橋エリアである御堂筋と長堀通の交差点に仮設の歩道橋(?)が在り、その上から出来るだけ広範囲に撮ろうと、8x10インチのフィルムもカバー出来る90mm広角レンズのイメージサークルを最大限に利用する為、4x5のフィルムホルダー側を横位置でスライドさせ2枚撮りし繋ぎ合わせた写真・・

と言っても何の事やらと理解してもらえないと思うが、フィルム時代の当時に時折使用したテクニックで西から東へ向け撮った写真です。

建築人 No.725 2024年11月号

監修 公益社団法人大阪府建築士会 建築情報委員会

編集 建築情報委員会『建築人』編集部

部門長：田鍋 稔

委員長：松下典央(編集人代表)

編集人：武藤優哉 石上芳弘 荻窪伸彦 河崎太平
昇 勇 橋本頼幸 春岡須磨子
三谷勝章 村上栄司 山本恭史

事務局：隅原正太 母倉政美

ロゴ・フォーマットデザイン 芝野健太

印刷 中和印刷紙器株式会社

令和6年11月1日発行

発行人：会長／岡本森廣

発行所：公益社団法人大阪府建築士会

〒540-0012 大阪市中央区谷町3-1-17 高田屋大手前ビル5F

tel. 06-6947-1961



茨木市の中心部に大ホール、図書館、子育て支援施設、プラネタリウムなどを集約するプロジェクト。「日々何かが起こり、誰かと出会う」そんな公共空間を目指して、ランドスケープと建築が相互に浸透し合う、立体的な公園をコンセプトに設計した。約50m×50mのフラットスラブと600φの丸柱を主体構造に持つオープンなボリュームと、1201席の劇場を内包する閉じたボリュームが相互貫入する構成に、多様な用途が7層に渡り積層しながら繋がる。来館者は散策するように上下階を移動し、お気に入りの場所を選んで過ごしている。住民・行政・施設管理者、設計者、施工者「4位一体」で公共性とは何か考え作り上げたプロジェクトである。
(市川雅也/竹中工務店設計部)

所在地：大阪府茨木市
用途：公共複合施設
(市民センター・劇場・図書館・診療所)
竣工：2023.10
構造規模：RC造一部S造
基礎免震、地上9階
敷地面積：10,500.42㎡
建築面積：4329.08㎡
延床面積：19715.22㎡
写真：ナカザンパートナーズ



カネカ事務所棟は、工業所正門前に建つ2階建てのオフィスビルである。工業所内に残る小さな森に隣接し、森との親和性を主題に計画された。3.6mの階高により森に対して存在感を抑えるとともに、中央コアと水平連窓により横方向に広がりのある緑のオフィスを実現した。正面にはランダムな支柱で構成されたPV手摺を設置し、森と呼応するような柔らかな表情を目指した。面発光するOLEDをオフィススペース照明として日本で初めて採用し、目に優しい光環境と、薄さを活かした様々な照明形態を試みた。緑の豊かさ、場所ごとに異なる様々な光、森との親和性によって、この土地ならではのウェルネスなワークスペースを探索した。

所在地：兵庫県高砂市
用途：事務所
竣工：2024.06
構造規模：RC造一部S造
敷地面積：177,814㎡
建築面積：923.37㎡
延床面積：1,658.82㎡
写真：山内紀人



大阪市内で初めての都市公園（浪速公園）を活用した公園内保育園である。市の公募に施設提案をして選ばれた社会福祉法人が運営している。大屋根の園舎を南に寄せて配置し、深い庇と園庭を北側につくって公園との一体化を図った。公園を楽しむ市民も園児の活動を見守ることができる。正門右手には公園に面した絵本ルーム・キッチン・授乳室・多目的トイレを設けて地域に開放している。2階トイレの大屋根を切り込んでハイサイドライトとし、隣り合う保育室と廊下の欄間を透かして光を取り込んだ。公園の自然と共に子どもたちの感性を育む環境となることを願っている。

所在地：大阪市浪速区
用途：保育所
竣工：2022.01
構造規模：S造
地上2階
敷地面積：836.76㎡
延床面積：937.77㎡
写真：笹倉洋平

2024年 「建築人賞」作品募集



審査委員長 磯 達雄

1963年 埼玉県生まれ
1988年 名古屋大学工学部建築学科卒業
日経BP社入社「日経アーキテクチュア」編集部勤務(～1999年)
2001年～ 桑沢デザイン研究所非常勤講師
2002年 フリックスタジオ共同主宰(～2020年)
2008年～ 武蔵野美術大学造形学部芸術文化学科非常勤講師
2020年～ Office Bunga共同主宰
2023年～ 早稲田大学芸術学校非常勤講師

「建築人Gallery」掲載作品は 『建築人賞』の候補作品です。

公益社団法人大阪府建築士会は、会員サービスの一環として会報誌「建築人」を毎月発行しています。本会会員をはじめ官公庁、大学、図書館、出版社、報道機関等に頒布し、発行部数は約3,000部です。「建築人」の誌上で「Gallery」の建築作品紹介コーナーを設け、現代建築の様相を反映できるものとして好評を博しており、毎年1月号～12月号のGalleryに掲載された作品が「建築人賞」の審査対象になります。

「建築人賞」は2009年に創設され、個人の審査委員長により選考し、表彰式は翌年5月の本会の定時総会で執り行われます。「建築人賞」「同賞新人賞」「同賞奨励賞」「同賞佳作」があり、「建築人賞」「同賞新人賞」の設計者には記念品が授与され、各賞の建築主、設計者、施工者にはそれぞれ賞状が贈られます。ぜひ本誌に皆様の建築作品の掲載をお願いいたします。



建築人賞



建築人賞新人賞



佐久間 靖 (ガラスアーティスト)

1971年 大阪府高槻市生まれ
1996年 神戸学院大学 法学部 卒業
1997年 ㈱ロクレールプロダクションガラスアーティスト 三浦啓子氏に師事
2016年 ㈱Jiku Art Creation 作品制作に従事

「建築人」Gallery 掲載要項

■ 掲載概要

1頁カラー、写真4点程度、説明文300字程度

■ 掲載事項

- ・建築主、設計者、施工者、協力会社
- ・所在地、用途、竣工年、構造規模、敷地面積、建築面積、延床面積

■ 掲載料

110,000円(本体100,000円+消費税)

※1 初回割引 88,000円(本体80,000円+消費税)

(過去10年間で設計者及び施工者がGalleryに掲載されていない場合が対象です)

※2 若手初回割引 55,000円(本体50,000円+消費税)

(※1を満たす方のうち、40歳以下かつ建築設計事務所を主宰されている方が対象です)

■ 問合せ・申込み

公益社団法人大阪府建築士会事務局 担当:母倉

e-mail: info@aba-osakafu.or.jp TEL: 06-6947-1961 FAX: 06-6943-7103

動静レポート

会長動静

- 9/28 近畿建築祭「しが大会」
- 9/30 吹田市長面談、箕面市長面談、台湾事情講演会
- 10/1 大東市長面談
- 10/4 日本建築士会連合会古谷会長面談
- 10/6 健康・省エネ住宅国民会議と協議
- 10/7 大阪府収用委員会
大阪大会実行委員会
- 10/8 日本建築士会連合会教育委員会
- 10/9 健康・省エネ住宅国民会議と面談
- 10/10 日本建築士会連合会正副会長会議
- 10/11 東大阪市長面談、
民間総合調停センター 15 周年
運営会議、大阪建築コンクール講演会
- 10/16 門真市長面談、木を建てる講演会、
理事会
- 10/17 東ジャワ州商談ミッション
- 10/20 健康・省エネ住宅国民会議と協議
- 10/21 AAF 建築学生ワークショップと協議
東大阪市固定資産評価審議会
- 10/22～25 建築士会全国大会鹿児島大会
- 10/24 日本建築士会連合会理事会

会長・役員による大阪府及び市町村訪問

◎ 9/30 吹田市・後藤圭二市長と面談



左より/山地特任相談役、岡本会長、後藤市長、横田副会長、牧田専務理事

◎ 9/30 箕面市・原田亮市長と面談



牧田専務理事、上田副会長、原田市長、岡本会長、宮田理事

◎ 10/1 大東市・逢坂伸子市長と面談



牧田専務理事、岡本会長、逢坂市長、上田副会長、嶽下理事

◎ 10/11 東大阪市・野田義和市長と面談



仙入理事、岡本会長、野田市長、横田副会長、牧田専務理事

◎ 10/16 門真市・宮本一孝市長と面談



宮本市長、岡本会長、石貫副会長、田中理事、牧田専務理事

10 月度 理事会報告

日時 10 月 16 日 (水) 16:00～17:30

場所 本会・東会議室

出席 理事 40/46 名 監事 2/2 名

(1) 入退会の承認

(人)	9 月	入会	退会
正 会 員	2,178	3	7
準 会 員	27	0	0
特準会員	21	0	0
賛助会員	143	1	0
計	2,369	4	7

(2) 会計報告

(円)	9 月計	累計
収入	2,894,111	88,260,294
支出	11,644,050	66,349,622
差引	△ 8,749,939	21,910,672

上表の当期経常増減明細を承認しました。

(3) 省エネ法改正に伴うサポート体制

10/1 に本会及び大阪府建築士事務所協会並びに近畿建築確認検査協会の 3 者において「改正建築基準法・建築物省エネ法の施行に伴う建築士サポート事業に関する覚書」を締結しました。

また、日本建築防災協会とサポート体制に係る業務委託契約を締結することを承認しました。

(4) 大阪建築コンクール

コンクールの審査員構成を含め、来年 1 月に開始する応募要項及び応募にあたっての注意事項を承認しました。

(5) 全国大会「大阪大会」の講演企画

記念講演はクリスチャン・サンダー・チェルシッチ氏並びに大阪講演 1 は橋爪紳也氏に加えて、大阪講演 2 は小林紘一氏（アーバンデザイナー・ランドスケープアーキテクト）のご承引を報告しました。

(6) 本会の賛助企画による忘年会

4 団体主催の忘年懇親会の廃止に伴い、本会賛助委員会企画の忘年会を 12/18 に開催することを承認しました。

(7) 次期事務局長の任免

中務常務兼事務局長の就業規則に則った 11 月末日の退職に伴い 12/1 より隅原課長を次期事務局長に推薦し、定款第 45 条の 3 に基づく理事会承認を得て会長により任免しました。

全国大会「鹿児島大会」の参加と次回「おおさか大会」のアピール

10/25 の「鹿児島大会」において、来年 9 月に本会主管の次回全国大会「おおさか大会」のアピールを行いました。



大阪府建築士会・大阪弁護士会共催 建築紛争セミナー9「危険な擁壁—そして沈下」

日程：令和6年9月20日（金）

会場：大阪弁護士会館

参加者：60名



宮田 哲（理事）

建築相談委員会で、建築士と弁護士の共催で建築紛争セミナーが行われました。今回は実際の事案を題材に調停事例を紹介し、建物の不具合現象の原因調査、関連する法規制、法的責任追及の相手方への請求内容、事案解決にあたっての創意工夫といった一連のプロセスについて、弁護士、建築士の立場から解説を加え、擁壁、不同沈下に関する必要な知識を習得するプログラムでした。最初に建築士から地盤と地盤沈下のメカニズム、擁壁の種類、かかる力、転倒のメカニズム、危ない擁壁などが説明されました。弁護士からは、法令上の規制として、擁壁関係では、地すべり等防止法、急傾斜地崩落防止法、建築基準法、がけ条例、宅地造成規制法などの説明がありました。その後、相手方への法的責任追及、請求内容、事件解決にあたっての創意工夫などを、寸劇のような設えでわかりやすくすすめられました。

題材になった事例は、不動産業者であり建設業者でもある会社から土地の購入及び新築建物を建築する契約を締結しました。相談者は売買代金及び請負代金を支払い、引渡しを受けました。その後、雨漏りや異臭などの不具合が発生し、調査の結果、仕様書と異なる材料が使用されていたことが判明し弁護士に相談することになりました。相談を受けた弁護士は知り合いの建築士に協力を依頼し、建築士が現場を調べていくと、当初の不具合とは別に建物が不同沈下していることが判明し、他の問題よりも大きな問題であると思われたため、そこにフォーカスしたという事案です。（建築当初から、建築士が建物調査をすることで、依頼者が瑕疵現象と認識すらしていなかった重大な瑕疵が発見され、そのうえで、建築士と弁護士の密な連携により、依頼者にとって良い解決が得られた）

例年は、2月開催のこのイベントですが、今年は、諸事情により9月20日開催となり、準備に殆ど時間が取れないなか、建築士会、弁護士会の担当者の方々は本業がお忙しいにも関わらず、密に打合せを行われて、本当にわかりやすいセミナーになったことをみると、大変なご苦労があったと思います。終了後、両会の参加者での懇親会は非常に盛り上がりしました。来年度はどのような素晴らしいセミナーになるのか楽しみにしています。



建築相談室から（89） 繰り返される相談 その2

橋本頼幸（建築相談委員会幹事）

前回に引き続き繰り返される相談をご紹介します。

基礎が濡れて乾かない

「新築建売住宅を1年前に購入。雨が降った後2日たっても基礎部分が濡れた状態が続く。家の周辺全面、地盤面より高さ20cmぐらい。このままだと中で鉄筋が錆びて爆裂することを心配している。業者に相談しても説明なく、逆に威嚇される始末。近隣の同様建物には何も問題はない。」との相談に、相談員は現地相談をすすめています。その1週間後、「雨の後、基礎部分が2～3日濡れた状態が続く。業者に相談したがまったく対応してくれない」と再度相談。そのときの相談員はADR（民間総合調停センターで和解あっせん手続き）をすすめています。さらに1ヶ月後に同様の説明の後「業者から問題はない、補修の必要も無い、と言われた。以前の相談では爆裂の可能性があると言われて心配している」とのこと。相談員は面接相談や現地相談

を説明したようです。

3日連続の相談

「壁を壊して92万請求された、壁を修復して1階の強度を上げるように依頼したが、施工がとにかく酷いので見に来て、業者に言うてほしい」との相談。「現状のアドバイスはできるが業者への指導はできない。図面も契約書も無いので判断できるかわからない。施工がわかる写真を用意してください。」と回答しており、「片言日本語で相談内容がわかりにくい。」とメモされていました。翌日は「隣人から紹介された人が勝手に内装を撤去しその工事費を請求された、次に頼んだ別の業者の工事が酷いので構造的に大丈夫が見てほしい。施工済みのボードを一部撤去させるのでそのときに現地確認をお願いしたい。」とのことで、「壁撤去したら連絡するように」と回答し「終始興奮してしゃべって内容がわかりにくい」と次の相談員はメモしていました。さ

らに翌日「築50年、借地に平屋を建てその後2階部分を建て増した店舗に隣戸の人があいているなら貸してほしいとのことで2階のリフォームをする業者に鍵を貸した。鍵返却時に見に行ったら壁の一部撤去や土間が掘られていたため信用できなくなり、工事は別業者に依頼した。しかし最初に依頼した業者にはずさんな工事をされた。今クロスまで仕上がった状態ではあるが、改めて専門家調査をしたいのでそれまで待ってほしい、といったが、取り合ってくれない。」とここでようやく詳細がわかりましたが、結局結論が出ないまま相談は終了していました。

背中を押せる相談

約1ヶ月で5回相談をしてこられた方もいます。不安だけど解決する行動ができない相談者もおられます。連絡が途切れる相談もあります。そっと背中を押すような相談になれば良いと日々相談員は奮闘しています。

建築士会からのお知らせ

既存建築物耐震診断等の評価

不特定多数が利用する施設や沿道建築物など、申込者が検討した建築物の耐震診断及び耐震補強計画について、専門的観点のもとに審査・審議を行い、妥当であると認める申込案件に対して評価書を交付します。

(業務内容)

耐震診断報告書や耐震補強計画案の審査、評価等

(対象建築物)

公共・民間等の建築種別、用途、規模、構造種別は問いません。また、他府県の建築物も対象としております。

(会員特典)

申込者又は診断等実施者が本会会員の場合は、評価手数料が10%割引となります。

【WEB版】確認申請のプロ養成講座
初級編
11/1～1/31 CPD3単位

なかなか教えてもらえなかった確認申請。その基本を知るだけで、あなたは確認申請のプロと呼ばれる。訂正項目が少なく、審査がしやすい申請図面が作成できれば建築着工も安心！常に変化している確認申請の世界。住宅の省エネ適合義務化や4号特例の縮小、そして申請のデジタル化による電子申請などの最新事情がわかる。

※2024年2月28日に実施した同名の講習会と5～10月に配信した同名講座と同内容です。

視聴期間 11/1(金)10:00～1/31(金)終日

配信方法 WEB講習

受講料 建築士会会員6,000円
後援団体会員6,500円
一般7,000円

主催 (一社)近畿建築確認検査協会
共催 (公社)大阪府建築士会

令和6年度 地域文化遺産のガイド人材
育成講座(全3日間)
CPD全14単位(予定)

本講座は、文化庁の補助を受け地域の町並みや文化遺産を案内するガイド人材の育成を目的とします。大阪の歴史や地域的特性についての理解を深めながら、ガイドとして必要な知識・スキルを身につけます。あなたもガイド活動を通じて、大阪の文化遺産の魅力を伝えていきませんか。

日時 11/10(日)、11/24(日)、12/22(日)
10:00～17:00

講師 天野景太・和泉大樹・小林卓司
仁木宏・橋爪節也・船越幹央

会場他 詳細は本会HP参照

定員 20名(申込先着順)

受講料 本会会員および大阪府ヘリテージ
マネージャー6,000円(全3回)、
一般7,500円

令和6年度 建築士定期講習
11/20、12/13、1/22、2/4、3/27 CPD6単位

建築士法の規定により、建築士事務所に所属するすべての建築士は3年以内ごとに定期講習を受講しなければなりません。本年度は令和3年度に本講習を受講された方や、建築士試験に合格された方が対象となります。未受講者は懲戒処分の対象となりますので必ず年度内に受講してください。

▼対面講義

日程・会場・定員

※2/4(火) 大阪YMCA会館 200名

▼DVD講義

日程・会場・定員

11/20(水) 大阪府建築健保会館 90名
※12/13(金) 大阪府建築健保会館 90名
1/22(水) 大阪府建築健保会館 90名
3/27(木) 大阪府建築健保会館 90名

※の日程 大阪府建築士会が運営
※以外の日程 大阪府建築士事務所協会が運営

注) 各回定員に達し次第、受付を終了します。

時間 9:15～17:00(各講習日共)

受講料 12,980円(消費税込。事前入金)

申込 下記URLよりお申込みください。

インターネット申込みができない方は、大阪府建築士会HPの定期講習の案内をご確認ください。

https://www.jaeic.or.jp/gyomu/off_teiki/index.html

令和6年度監理技術者講習
11/21、1/15、3/7 CPD6単位

本講習会は建設業法に基づく法定講習であり、建築に特化したテキストを使用し、経験豊富なベテラン技術者の講師による解説と映像で、実務に役立つ情報を提供いたします。なお、監理技術者以外の建築士や技術者の方も受講が可能です。日頃の工事監理業務に役立ちますので、ぜひご受講ください。

日時 11/21(木)、1/15(水)、3/7(金)
8:55～17:00

会場 大阪府建築士会 東会議室

定員 30名(申込先着順)

受講料 WEB申込み9,500円
郵送申込み10,000円

申込 日本建築士会連合会HPより
<http://www.kenchikushikai.or.jp/torikumi/news/2015-07-28-2.html>

既存木造住宅の耐震診断・改修講習会
(一般診断法)
12/3 CPD5単位

本講習会は、大阪府及び府内市町村の木造住宅耐震診断・改修の補助を受けることができる技術者の養成を目的としています。講習の修了者名簿は大阪府内の市町村等に常備し、耐震診断を希望する建物所有者等からの問合せに活用します。

日時 12/3(火) 10:00～15:50

会場 大阪府建築士会 東会議室

定員 30名(申込先着順)

受講料 会員5,000円、一般9,000円
テキスト代 7,300円



Informationの詳細及び申込みは大阪府建築士会ホームページに掲載しています。
<http://www.aba-osakafu.or.jp/> メール info@aba-osakafu.or.jp
TEL.06-6947-1961 FAX.06-6943-7103

既存住宅状況調査技術者講習 更新講習12/11、3/12 CPD2単位

既存住宅状況調査は、登録機関の講習を修了した建築士のみに認められる業務です。令和3年度に本講習を修了された方は本年度が有効期限のため更新講習をご受講ください。

日時 12/11(水)、3/12(水)

13:30～17:00(DVD講習)

会場 大阪府建築士会 東会議室

定員 30名(申込先着順)

受講料 WEB申込17,000円

郵送申込17,600円

申込 日本建築士会連合会HPより。上記以外にオンライン講習も開催。

<https://www.kenchikushikai.or.jp/koshukai/kizonjyutakujyokyochosa.html>

わくわく探検(駅前シリーズ)第21弾 八尾駐屯地から旧奈良街道 —記念行事と史跡地をめぐる—

JR大和路線編

11/24 CPD2単位(予定)

建築士の会「東大阪」では、秋のわくわく探検(駅前シリーズ)を開催します。今回はJR志紀駅を出発して八尾駐屯地記念行事エアフェスタ2024を観覧し、旧奈良街道の史跡地をめぐる約4.5kmの行程です。八尾駐屯地で航空機、展示品を見学し、八尾市の歴史に触れ中河内地方に現存する史跡地を散策しませんか。

日時 11/24(日) 9:00～

集合 JR大和路線 志紀駅改札

解散 JR大和路線 八尾駅

(安中新田会所跡 旧植田家住宅予定)

定員 30名(申込先着順)

参加費 会員・一般1,000円 学生500円

令和6年度在阪建築16団体合同 新年交礼会

1/6

毎年恒例の在阪建築16団体による合同の新年交礼会を開催いたします。

日時 1/6(月) 15:00～16:00

会場 リーガロイヤルホテル2階「山楽」

会費 3,000円

申込締切日 12/4(水)

※会費を添えて本会事務局までお申込ください。12/4(水)までにご欠席のご連絡がない場合は会費をご負担願います。

第19回国際企画海外研修旅行 「タイ国 微笑みの国で微笑もう!」 2/20～25 CPD申請(予定)

今回はタイ国の北部チェンマイからスコタイ、アユタヤ、バンコクと巡ります。詳細は未定の部分もありますが、仮予約を受け付けております。仮予約に申し込まれた方には、後日詳細が決まり次第お知らせいたします。

日時 2/20(木)～25(火) (5泊6日)

定員 15名

参加費 25万円(※予定)

仮予約については事務局までご連絡ください。

その他のお知らせ

にほんの あたな てしごと 橋口新一郎展 —古代の敷葉、現代の茶室— 12/17～2/16

大阪府生まれの建築家・橋口新一郎によるアートインスタレーション作品の展示です。日本の伝統的な技術や感性に着目し、次々と茶室を発表。国内外で高い評価を得ています。代表作「織物の茶室」霞庵」と、狭山池の飛鳥時代～奈良時代の堤に使われている古代の土木技術「敷葉工法」から着想を得た作品を展示します。

日程 12/17(火)～2/16(日)

会場 大阪府立狭山池博物館

<https://sayamaikehaku.osakasayama.osaka.jp/>

木造軸組工法 中大規模建築物の構造 設計演習

1/16、1/17

本講習は「木造軸組工法 中大規模木造建築物の許容応力設計度」の講習会受講者を対象に、構造計算演習を実施し、今後各地域における中核的な構造設計者として、木造に関する相談を受けたり、地域の講習会で講師を務めることができるような人材を育成することを目的としています。

日時 1/16(木)、1/17(金)の全2日間

10:00～17:00

会場 AP大阪茶屋町8階I+Jルーム

(大阪市北区茶屋町1-27 ABC-MART 梅田ビル8F)

定員 40名(申込先着順)

参加費 無料(但し計算演習資料代1,340円)

申込 一般社団法人木を活かす建築推進協議会

<https://www.kiwoikasu.or.jp/news/404.html>

「鉄筋コンクリート構造計算規準」改定 講習会

1/27

日本建築学会刊行の「鉄筋コンクリート構造保有水平耐力計算規準・同解説」と「鉄筋コンクリート造建物の等価線形化法に基づく耐震性能評価型設計指針・同解説」の改定内容を解説します。

日時 1/27(月) 10:00～17:00

会場 大阪科学技術センター 大ホール

定員 250名

参加費 日本建築学会会員14,000円

後援団体会員16,000円

上記以外19,000円

申込 日本建築学会本部事務局

https://www.aij.or.jp/jpn/symposium/2024/2024rc_standard.pdf

建築相談委員会 住宅を設計する仲間達部会の紹介



住宅を設計する仲間達部会 担当理事 嶽下康弘

“住宅”は「衣・食・住」のひとつで、人に一番身近な建築です。住宅を設計する仲間達部会は社会貢献部門の建築相談委員会に属し、一般市民や所属建築士に対して主に住宅に関する様々な情報提供や活動を行っています。

【信頼できる建築士の紹介、広報】

一般市民の方に向けて、信頼できる住宅の専門家として、部会員である登録建築士を以下の方法で紹介しています。

◆Webサイトによる広報

住宅を設計する仲間達部会のWebサイトでは部会に登録の建築士について、作品を含めプロフィールを紹介し市民が家づくりのパートナーを選ぶ一助に。

また広くイベントなどの告知もしています。

その他、Webサイトから住宅に関する建築相談の依頼などもあります。

◆建築士リストの発刊

隔年で部会登録建築士や家づくりのノウハウなどを掲載した「建築士リスト」を作成、発刊し市民の目に触れる公共の場に設置。



(建築士リスト・Webサイト)

◆建築作品パネル展

大阪市住まい情報センターのほか、賛助会員様などのスペースをお借りして建築作品パネルの展示を不定期で行っています。



(住まい情報センターでのパネル展)

【住まいの無料相談、セミナーの開催】

一般市民の方に向けて大阪市立住まい情報センターと連携し、毎週日曜日に無料相談会を開催。ここでは、住宅を設計するプロ（建築士）として、住まいに関する様々な悩みや相談に対応しています。

例えば…

●住宅建築における設計者や工務店などのパートナー選びについての相談

●建築（新築、リフォーム）工事における不具合についての相談

●隣家（戸建て、長屋など）の改修や解体工事による影響について相談

等々、相談内容も実に様々ですので、相談員としても幅広い知識が要求されます。

この様な相談に対応することで建築士としてのスキルアップにもつながっています。

又、年に数回、同センターに講師を派遣し、市民向けに住まいにまつわるテーマに沿ったセミナーも開催。

市民からも積極的に質問が出るなど、毎回盛況に終えています。



(住宅設計相談)

【登録建築士に向けた情報提供】

目まぐるしく変わる業界の情勢に対応すべく、定期的な勉強会や講習会の開催で登録建築士の研鑽の場を設けています。

例えば…

★同業の集まりである事をメリットとして「建築設計事務所の仕事」と題して売れっ子建築事務所のノウハウを学ぶ

★建築業界に限らずWebでの集客は当たり前
「魅力あるWebデザイン勉強会」

等々、同業者には中々聞けないが興味を持ってもらえるテーマを中心に勉強会を開催。



(勉強会の様子)

住宅を設計する仲間達部会は、住宅を設計する専門家として…

広く一般市民の住宅相談の受け皿として、また、登録建築士の研鑽の場として、積極的に活動が続けております。

部会活動にご興味や関心をお持ちの方は、是非、気軽にご参加下さい。



(大西憲司さんを講師に迎えて開催した交流会)

賛助会員委員会のご紹介



賛助会員委員会 委員長 相原康隆

古くからの商都大阪の大阪府建築士会の賛助会員数は約140社にのぼり全国的に見ても圧倒的な数を誇っております。

これら賛助会員の大阪府建築士会への思いは様々ですが期待の大きさが会員数に現れております。

賛助会員委員会は賛助会員と正会員（準会員等含）が一つとなり活動する委員会です。建築士会を応援する企業である賛助会員企業にとって最大の期待は自社の商品等を建築士、建築士会員にアピールし採用して頂きたいことです。大阪にはまだまだ知られていない優れた建築資材、建築工法、建築に関する事業者が存在します。また建築士にとっても未知の資材等の知識を得る事によってお仕事にも社会への貢献にも結び付きます。賛助会員委員会ではこれらを会員建築士の皆さんへ知って頂く様々な方策を進めております。

委員会の開催

毎月第1水曜日16時より大阪府建築士会会議室（WEB参加可）にて開催しております。多くの賛助会員企業の皆様は大阪府建築士会の会員の皆様へ企業や製品を知って頂く事が目的の一つです。

我々大阪府建築士会は公益社団法人ですので、単なる企業・製品PRではなく建築技術の知識向上や社会への貢献が重要な役割ですので、双方の目的が合致し、賛助会員企業のチカラが無くては出来ない特色ある講習会や見学会等の開催を検討し進めております。また、優れた技術や情報を持つ賛助会員企業同士のビジネスマッチングの場としても飛躍したいと考えております。

賛助会員・正会員交流会の開催

賛助会員委員会主催の納涼会、忘年会を企画し、賛助会員と会員の交流の場としております。交流会では賛助会員企業各社のPRタイムを設け情報共有の場としております。



賛助会員リスト

エネルギー価格や資源、建築資材等の供給の危機・高騰、地球温暖化等を含めたGX・DX・SX（グリーン・デジタル・サステナブルトランスフォーメーション）は産業構造システムや市民社会構造の変化を促しています。私共、市民生活すらもニューノーマルという新しい様相にあります。このような激変な社会にあって一昨年、公益社団法人大阪府建築士会は70周年を迎え、新たな一步を踏み出しました。その一步を賛助会員会のメーカーの方々は基幹となるメーカーリストの改定に取り組んでおります。日々新たな課題に直面し解決する大阪府建築士会会員と、それぞれの分野のスペシャリストである賛助会員企業をマッチングし相互の業務と課題解決の一助となるよう努めております。

理事会後の賛助会員PR

毎月開催する大阪府建築士会理事会後に各賛助会員企業によるPRタイムを実施しております。

多数の理事に向け最新の技術や製品をPRし、本会ホームページより閲覧できるようになっており本年度募集の開催枠は全て埋まる等好評企画となっております。



大阪全国大会に向けて

来年（2025年9月）開催の建築士会大阪全国大会では多くの賛助会員企業が企業PRブース出展や広告協賛を実施して頂きます。我々賛助会員委員会の会員企業が、全国から参加される多くの建築士へ情報提供の場となるように開催したいと思っております。

賛助会員企業ご紹介のお願い

賛助会員企業は大阪府建築士会会員へのPRや交流が可能です。また、建築士会CPDにおいて社員の登録費用やプログラム開催の割引等を受ける事ができます。大阪府建築士会に賛助会員登録されていない企業・団体様がおられましたら是非ご紹介ください。

賛助会員 年会費（1口）：30,000円



端正なたたずまいを湛えて

帝国劇場 一九六六年

文・写真 松隈 洋「神奈川大学建築学部教授」

二〇二四年九月中旬、東京都千代田区丸の内、日比谷通り沿いのお濠に面した帝国劇場の最上階にある出光美術館に、久方ぶりに立ち寄った。数日前に始まった「物、ものを呼ぶ―伴大納言絵巻から若冲へ」と題する展覧会の鑑賞を通して、同館最後の姿を見届けたと思ったからだ。すでに二年前に公表されているが、一九六六年に竣工した帝国劇場と隣り合わせて一体の国際ビルディングは、防災機能の強化と機能更新、魅力あるまちづくりへの貢献

を目的に、全面的な建替え計画が進んでおり、出光美術館は、次の名宝展を最後に、十二月二十五日をもって休館する。帝国劇場も、クロージング公演となるミュージカル「レ・ミゼラブル」の千秋楽が二〇二五年二月七日であり、残り数カ月で幕を閉じることが決まっている。そのため、どこか切ない現状見納めの機会となった。

しかし、現地を訪れてみると、良好な状態を保つための丁寧な維持管理が持続的に施されてきたからなのだろう、



皇居側の日比谷通りから見た全景



帝国劇場の南側一階正面入口口まわり

端正なたたずまいは、竣工から五十八年経ったとは思えないほど、みずみずしく清新な姿で変わらなずにあった。その存在感が少しも色あせないのはなぜなのか、歴史を振り返ると、この建築に注ぎ込まれてきたものの大きさが見えてくる。

この建築は、一九五九年に策定された「丸の内線総合改造計画」によって、もとと同じ街区に独立して建っていた三菱仲三号館と旧・帝国劇場を、ひとつに統合して誕生した共同ビルである。谷口吉郎（一九〇四―一九七九年）が建物全体の外観と帝国劇場のインテリアの設計を担当している。そのため、軒高三十一m、鉄骨鉄筋コンクリート造、地下六階、地上九階、延床面積約四万㎡の当時としては破格の規模を誇る。この時、丸の内を南北に貫く東側の仲通りも、十三mから二十一mに拡張された。背景には、高度経済成長によるオフィス需要の急激な高まりに対応するために、丸の内地区の近代化を急ぐ必要があったという。おそらくそれ以上に、新しい帝国劇場には、一九三三年九月一日の関東大震災で被災したが、大改修を経て翌一九三四年に復興開場し、戦争を挟んで戦後も大切に使われてきた旧館に対する敬意が込められていたに違いない。

当時のことを次のように回想している。『帝都へいくと、立派な外観に驚く。場内にはいると、金ピカの装飾にシャンデリアが輝いている。（…）豪華な場内に田舎の少年は目を見はった。（…）その建築が地震で倒壊し、猛火に包まれ、残骸となったのである。（…）突然の消滅に強いショックを受けた。それが高等学校の学生だった私に、「建築」というものの意義を意識させた。』（谷口吉郎『建築に生きる』日本経済新聞社一九七四年）

こうして、金沢の第四高等学校時代に、関東大震災で焼失した旧・帝国劇場の姿に衝撃を受けた谷口は、建築志望を決心し、東京帝国大学建築学科に進学する。また、自らの作風に影響を与えた北陸金沢の気候風土と実家の仕事についても、同書に次のように書き留めていた。

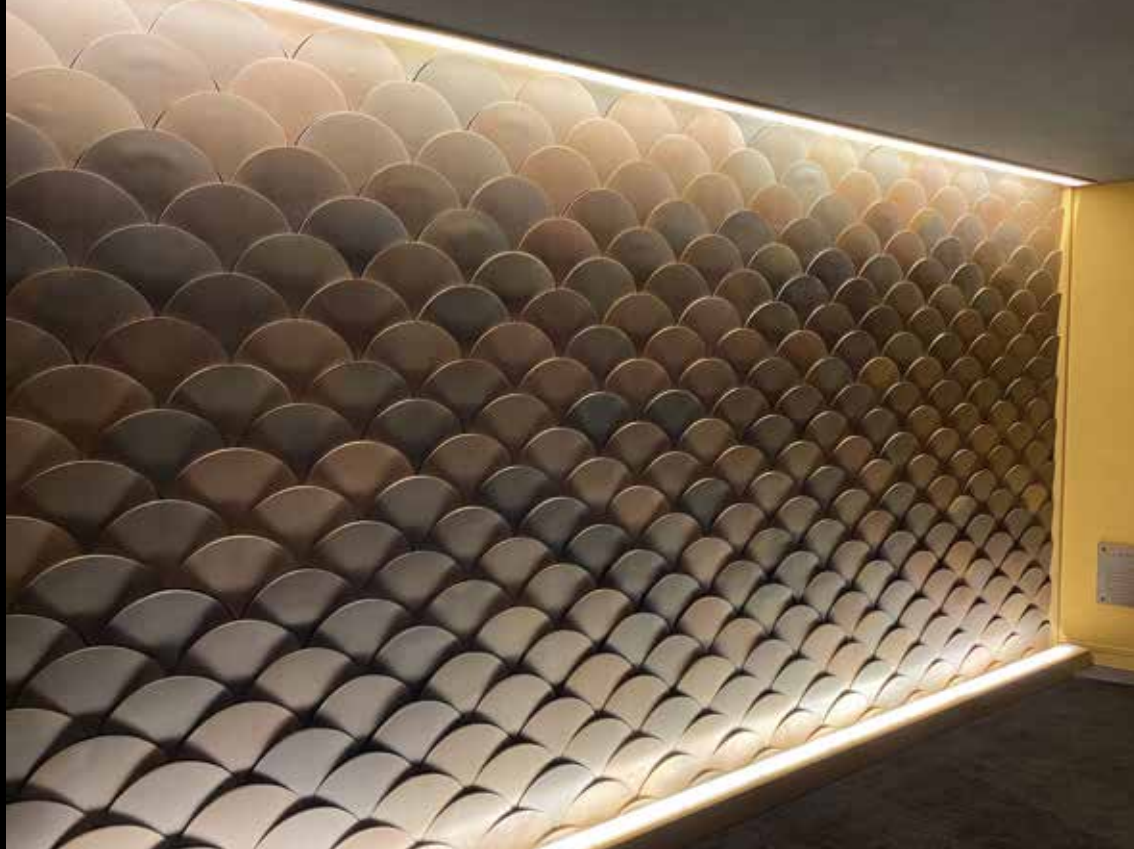
「暗い雪国の暮らしには、色彩と光明を求める願望が強い。それが庶民の美意識となり、大工や職人の腕に今も生きている。このような北陸のきびしい風土には特殊な造形感覚が成長している。その中で最も見事な色彩効果を発揮したのは「古九谷」の出現だった。その流れをくむ「窯元」の家に、私は生まれた。」

そして、九谷焼の窯元に生まれた谷口には、幼少期に見た職人たちの仕事ぶりが目に焼き付いているという。そんな美意識と職人の仕事に対する思いがあったからなのだろう。新しい帝国劇場と国際ビルディングの外観意匠に、谷口は心血を注ぎ、艶やかできめ細や

かな、自らの求める「水晶の結晶のごとき建築」を実現させようとしたのである。

外観の立面を特徴づけているのは、ヘアライン仕上げを施された幅四十五mm、奥行二二九mm、約八〇mm間隔のシャープな縦線による銀色に輝くステンレスサッシュと、腰壁に貼られた有田産の赤褐色のボーダータイル、共にスウェーデン産で、柱型と上下の庇や見切りに貼られた黒色と低層部の外壁に貼られたインペリアルレッド色の御影石である。中でも、腰壁の赤褐色のボーダータイルは、七十数回の試し焼きを経てようやくたどり着いた色なのだという。この帝国劇場の北隣には、本連載（二〇一五年三月号）でも取り上げたが、同じく谷口が続いて設計した東京會館（一九七二年／二〇一五年解体）が仲良く軒を並べて建っていた。その端正なファサードの連なりは、どこか今も金沢に残る茶屋街の木造の街並みを彷彿とさせていた。

谷口吉郎が、旧・帝国劇場への敬意を胸に、皇居のお濠に面した場所に築こうとした格調のある端正なたたずまいは、このまま跡形もなく姿を消してしまうのか。改築される新しい建築に、この清新なファサードをそのまま残して歴史をつなぐ方法はないのだろうか。整備された東側の仲通り側も、緑の木陰と調和する素晴らしい外観が今も新鮮だ。この建築が竣工した一九六六年は、バレスサイドビルディング、ソニービル、神奈川県庁舎、千代田生命本社ビルなど、戦後建築の豊作の年でもあった。二度とつくり出すことのできない現在の風景を前に、先人たちの遺した街角の建築の尊さを見つめ直すことが大切だと思えてならない。



【oiya (オイヤ)】

野水瓦産業株式会社
御原特殊瓦株式会社
株式会社タツミ

<https://www.oiya.jp/>

取材：橋本頼幸／建築情報部門委員



淡路瓦イズム



野水瓦産業（株）・御原特殊瓦（株）・（株）タツミの淡路島窯元3社のプロジェクトが立ち上がった。土と共生するために。

淡路島出身の著名プロダクトデザイナーである倉本仁氏とコラボレートして『oiya』プロジェクトがスタートした。

2021年夏、コロナ禍で発表会の開催が難しいなか、東京西麻布のカリモク・コモンズ東京で『oiya』の作品発表会を開催。

土は太古からの記憶を積層している。その土に新たな形と役割を与えること。それが『oiya』の目指すところ。

瓦製造技術は約400年前に淡路島に伝えられたと言われている。良質な粘土と海上交通、京都・奈良・大阪での瓦需要などの地理的条件が重なり、淡路島は日本三大産地のひとつとして発展してきた。しかし、現代の都市や生活空間には土を感じることは少なくなった。土の素朴さ、力強さ、柔らかさ、土が持つちからを改めて感じてもらいたい。淡路瓦にかかわる人たちはそれを強調する。

屋根材としての瓦の販売量は、最盛期の1/6までに激減した。瓦事業にかかわる会社や人々も最盛期の1/4まで減っている。瓦が現代建築で使われなくなったことに、後継者不足も追い打ちをかける。

現代建築において使われるタイルは国内で製造するところは少ないという。瓦は小ロットから、かつお客さんのニーズに合わせたものも作れる。タイルでできないことをできるのが瓦の良さ。野水専務はそう強調する。

『oiya』プロジェクトの3社は、それぞれ特徴を持つ。（株）タツミは鬼瓦や飾り瓦などを作る職人「鬼師（鬼瓦職人）」が一つ一つ手作り製作を得意とする。御原特殊瓦（株）は土を知り尽くし、特殊な瓦の成形・焼成を得意とする。野水瓦産業（株）は手仕事から最新技術を駆使した多種多様な瓦を製造する。この3社が集まったからできたプロジェクトである。

語源は、北欧で『島』を意味する「øya」に由来。出来あがった製品そのものだけではなく、島の産土（うぶすな）を意識し、次の時代に残す新しい「もの」づくり。

『oiya』の製品は、外壁材と家具の約20種類。野水専務はこれまでいくつか納入実績ができて、徐々に広がってきている実感を感じている。しかし、家具は一つ一つ手作りで大量生産にむかない。海外進出も視野に入れてホームページは英語と日本語の併記している。アジアのみならず、ヨーロッパ、アメリカにも出荷を考えるが、輸送に時間を要する。様々な困難にぶつかりながらも、土の良さを前面に出した商品の開発を続ける。瓦のデザイン性の高さを店舗内装などにも使ってもらいたい。

長年培われた伝統と時代に合わせて挑戦する心意気が新しい化学反応を起こすだろう。

■淡路瓦のお問い合わせ先

淡路瓦工業組合

兵庫県南あわじ市湊 134

Tel.0799-38-0570 Fax.0799-37-2030

info@a-kawara.jp

<http://www.a-kawara.jp/>



自然石の白と鮮やかな赤がEVホールに華やかさを与えつつ空間を引き締める



ツインコリドールで挟まれた中庭を貫くコロネードが印象的な空間を創る